

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700285		
法人名	有限会社 リアン		
事業所名	(有) リアン グループホーム えみな		
所在地	北海道岩見沢市南町8条1丁目4番8号		
自己評価作成日	平成28年2月20日	評価結果市町村受理日	平成28年4月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0175700285-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 28 年 3 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成15年に開設し、利用者様が安心して生活を送っていただくためにも地域社会との関わりの継続や働き掛けを多く持ち行ってきました。日常の地域との関わり、また行事を通じて利用者様も地域との関わりを楽しまれている様子がうかがえています。グループホームに入所し、社会との関わり、地域との関わりを奪うのではなく、利用者様が地域の一人として暮らして行く支援を考え実践しています。ケア面では利用者様の重度化が進む中、職員主導ではなく個別でしたい事、出来る事は出来る限りご本人の力で行って頂き、出来ない所を一緒に心をかけ日々の生活を送っていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【終末期の積極的支援】
看取りの経験が豊富な職員による丁寧なケアと協力医療機関との緊密な連携により、利用者のターミナルケアに積極的に取り組んでおり非常に多数の看取りを経験しています。
【理念に沿ったケアサービス】
「絆と笑」をキーワードとする法人理念の下に、職員一人ひとりが自分独自の理念作成したり職員発案の標語を内部に掲示してケア意識を高め、利用者に寄り添った丁寧なケアサービスを実践しています。
【詳細な介護関連記録】
センター方式の介護記録様式を採用し、複数の職員が分担して作成し、カンファレンスで職員の事前意見集約表やサービス計画実施一覧表で実施状況の把握が容易になるなど諸記録の丁寧な作成に努めています。
【ゆとりのある建物構造】
社員寮を改造した建物ですが、改装によって利用者の予備室、階別の事務室、職員休憩室、多目的室など余裕のあるスペースがあり、利用者のケアのために職員が働きやすい内部構造です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に掲示。数々の行事や、普段の生活の中でも理念を共有し合い、それを基に実践している。	「絆と笑」をキーワードとした法人共通理念をベースにして、職員一人ひとりによる「私の理念」と昨年より始めた標語を掲示して理念を共有し、利用者への丁寧なケアサービスに反映させています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常で利用者様との散歩時の挨拶から始まり、運営推進会議、町内会総会、町内行事を通じて交流を行っている。	総会や盆踊りなどの町内会行事に参加協力し、近隣の公園で開催するホームの「えみな夏祭り」に住民や子供たちも参加して楽しんでおり、ホーム側からの積極的働きかけによって地域との日常的交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症の症状別に分けての劇を行うなどし理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者が少ないことも多いが、参加者と意見交換は十分に行っている。また、行事を会議としている場合もある。	運営推進会議は、市及び地域包括支援センター職員、住民代表、家族代表が参加しています。会議では報告と意見交換以外に認知症や尊厳死などのテーマを設定して講師の話を聞くなど有意義な会議開催に努めています。	会議の内容に工夫を凝らしていますが、出席者が少ないため開催テーマによっては地域住民に呼び掛けるなどの方法を検討し、住民の参加者が増えることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの現況や介護保険制度等に関し、話す機会を得ている。	運営推進会議に市と地域包括支援センターの職員が参加しており、管理者も相談や書類提出等で行政担当窓口を頻りに訪れ、情報収集や意見交換を行って市との協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止対策等行動制限防止に係る規定を用いての内部研修を行い、全スタッフが理解しており、身体拘束は行っていない。	法人事業所全体の身体拘束廃止委員会があり、関連の外部研修受講、系列事業所全体のミーティングやホーム内における内部研修、関連マニュアルなどで職員は身体拘束をしないケアを理解し、実践しています。玄関の施錠も夜間のみで、日中の開閉はセンサーで知らせるようになっていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加、そのフィードバックを行い、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加等を通じ学習機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できるだけ多くの家族等と話が出来る場を持ち理解を得られるよう図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族にご意見、ご要望を伺ったり、ご家族・利用者様へのニーズ調査を行っている。	来訪家族には丁寧に利用者の様子を伝え、利用者状況から訪問家族は少ない現状ですが、毎月、「リオン通信」と健康管理記録を郵送し、利用者の様子を伝えていま。家族のニーズ調査を毎年、実施しています。家族からの要望等は内部で速やかに検討し、運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも提案できる体制にし、スタッフの意見を聞く場を設けている。	職員間の人間関係は良好で長期勤務者が多く、管理者と職員のコミュニケーションもスムーズです。職員は法人全体の定例会議などで意見や提案の機会があります。また、社長がホームのミーティングに参加し、職員の意見を聞く場を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自主的・積極的にやっている職員については、評価し手当等で反映している。また、日常的に会話する機会を設け就業意欲が向上するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人マニュアルの導入や、外部研修への参加の案内をし参加の希望を募ったり、内部研修にても介護面だけではなく、様々な議題を持ち出し行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	積極的に外部研修へ参加することで他事業所の取り組み等意見交換し、自事業所へ持ち帰る等を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用にあたって本人との面談を十分に行い、不安なことがある場合はいつでも聞ける体制を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用にあたって本人並びに家族との面談を十分にに行い、不安な事がある場合はいつでも開ける体制を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	即入居利用困難な場合があり、その際は小規模多機能型居宅介護での対応や他事業所のサービス利用の提案や関係機関との連携を行い提示している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	あくまでご本人様の意向、出来る事を優先し、生活の場である事の意識を持つように話し、できることを一緒に行っていく事を実施している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事参加や自宅への外出等を通じ構築している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所されてからの事業所訪問など本人、キーパーソンに確認し、面会に来やすい状況を整えている。	馴染みの場所等への外出希望は殆ど無い状況ですが、利用者との会話から行きたい場所を聞き出すなど外出の機会を持つよう支援しています。家族や知人が訪ねて来た際も歓迎して、ゆっくり過ごせるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	軽作業やレク活動等を集団で行うことで利用者一人一人の役割を見出し関わりあえるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了となった利用者の御家族からの相談等もありサービス利用につながることや、独居になったご家族と連絡を取るなど行い、その方が利用する事もある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント、モニタリングにセンター方式を導入している。	詳細に記録したセンター方式による諸介護関連記録を参考にして日常の会話や様子等から思いや意向を把握していますが、困難な時は本人の嫌がることを出来るだけ避けるようにして支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	聞き取りにて生活歴の把握を行うことや、日常的な会話から本人のこれまでの暮らしやできることを把握し実践できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回の申し送り、ミーティングの中で行っている。また、最低月1回のカンファレンスを行い現状の把握を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を用いてご家族に出来るだけ意見を聞き、それを取り入れ行っている。	センター方式の様式を採用し、複数職員で丁寧に記録しています。カンファレンスでは職員の事前意見集約表を基に協議しています。サービス実施計画表と実施状況一覧表によって計画に沿った実施となっているかどうか分かり易くなっています。計画見直しには家族と相談し、現状に即した計画になるよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の整備を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	相談の段階から、その方、ご家族等にとってどういった方法が最適かを考え提案している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会行事への参加、市内のお祭り等へ参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院からの往診もあり、医療面での質の確保は出来ている。	4週毎に24時間対応の協力医療機関による訪問診療が行われています。かかりつけ医等への通院には職員が付き添い支援をして病状を把握し、ケアサービスに活かしています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により訪問看護師の支援を受け健康管理に努め受診等に至る場合もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、週2～3回の面会を行い、病院関係者へ体調の変化の確認を行うことを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居の際に終末期について話す機会を設けており、重度化した際は医師も含め十分な話し合いを何度も繰り返し看取り加算の算定も行っている。	入居時に看取りの指針を説明し、利用者の状態に応じて看取りに関する同意書を頂いています。ホームは積極的に終末期支援に努め、協力医師との緊密な連携の下に多数の看取りを行い、職員も豊富な経験や関連研修などで看取り支援のスキルアップとホーム方針を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修等で得た対応などをフィードバックし、実践力を身に付けている。利用者別に緊急連絡先や医療機関を一覧表にする等行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施し、消防からの指導も受けており、セコムとの連携も図っている。	年2回の定期避難訓練を実施し、警備保障会社との契約もあります。さらに、災害対応マニュアルや緊急連絡網の整備、災害関連研修の受講、食料品等の備蓄品、停電時用のカセットコンロやポータブルストーブなども準備して災害に備えています。	避難訓練への住民参加呼びかけと所定の避難場所以外に二次避難場所も選定して家族にお知らせして避難場所を明確にしておくことを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊重の徹底。記録に造語などを使用している。	利用者の人格尊重と誇りを損ねないケアについて詳細に記載した身体拘束防止に関する文書があり、職員も勉強会や日常業務を通してその必要性を理解し、実践しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアを行う際には必ず利用者本人に声かけ、確認することを徹底し介護者本位のケアは行っていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ケアを行う際には必ず利用者本人に声かけ、確認することを徹底し介護者本位のケアは行っていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師来所時、本人と話しながらい、女性は外出時など化粧を行ったり衣類を選択していただくなどしておしゃれをして出かけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつや選択や、献立作り、下ごしらえなど出来ることは共にやっている。	職員の作成する献立は、一汁三菜を基本として栄養バランスや利用者の嗜好を配慮しています。行事食、誕生日等の出前料理、庭で焼き肉、外食等とバラエティに富んだ食生活を利用者は楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録に記載している。また、体重測定も月1回以上実施し、状態把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医の検診をしていただき口腔状態の把握や清潔保持の方法を指導していただき、利用者一人ひとりにあわせた口腔ケアを取り入れている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	下肢運動など行い、オムツ対応からトイレでの排泄へと移行した利用者もいる。	自立排泄が可能な利用者以外は排泄パターンをチェック表で確認し、時間間隔・食事前・就寝前や様子を見守りながらさりげない声かけ誘導でトイレ排泄を支援しています。下着類も頻繁に取り換えて、気持ちよく過ごせるよう努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と相談しながら薬剤の見直しや調整を行い、運動や食事面、水分補給に十分配慮している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴日は決まっているが、希望があった際はその都度対応している。	入浴は、日曜以外の日に週2回を目途として午後の時間帯に実施していますが、利用者の状態に合わせて日時の変更など柔軟に対応しています。また、浴室にはリフトが設置してあるため重度の利用者も入浴が容易です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	認知症状や体調を踏まえ休息時間を設けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべてのスタッフが受診対応行っており、利用者の状態把握に努めている。服薬は2人以上で確認し行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去に行っていた趣味や今できることを選択して行っていただけるよう提供し支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、季節を考慮し外出している。	天候状態に合わせて車椅子利用者を含めて周辺や公園の散歩と買い物に出かけ、車両を利用して花見・動物園・市内の公園などに外出しています。また、庭での焼き肉・椅子で外気浴・菜園の収穫など出来るだけ外気に触れる機会を多く持つよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を行える利用者がいないが、ホーム独自で通貨を作成し行事の際に使用したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が昔、使用していたものを持ち込んでもらい、居室内も本人、ご家族と自由にしつらえてもらっている。また、ホームで創作した者も本人希望によっては飾っていただいている。	社員寮を改造したホームで、季節の飾りや手づくり作品のあるリビングは明るくて広く、利用者は食事の時や日中をこの共有空間でのんびりと過ごしています。トイレ・浴室・洗面台も利用し易いように改修されて清掃も徹底しており、予備室・多目的室・レクレーション室などもあって運営に便利な内部構造です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間内では独りになるのは困難なため、別の空間作りの工夫を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が昔、使用していたものを持ち込んでもらい、居室内も本人、ご家族と自由にしつらえてもらっている。	居室内には1間幅の押入れがあり、室内整理に便利です。利用者は、使い慣れた家具や物品を自由に持ち込んで配置し、ゆったりと安心して暮らしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式やカンファレンスを通じ利用者個々でできることしたいことを把握、理解し様々な場面で活かせるよう取り組んでいる。		